

レディーエ通信 3月号

2012.2.25発行

暖かい日が多くなり、春の訪れを感じますが、朝晩はまだ冷え込むことが多いです。身体を冷やさないように気をつけましょう。



2013年 3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

水・金はPM休診、日曜は医師が指定した方のみの診察です。

☆説明会☆

初診の前に受けて頂く説明会です。

費用無料、3時間程度です。定員がございますので、必ずご予約ください。

8日（金） 20日（祝） 10：00～ です。



★妊婦教室★

17日10：30から2時間程度（参加無料）です。助産師さんが妊娠初期の身体の変化や気をつけたいことについてお話しして下さいます。定員がございますので、必ずご予約ください。

☆病院より☆

来年度から特定不妊治療助成金の内容が一部変更となります。ご注意ください。

☆看護師より☆

毎年この時期になると、花粉症が騒がれますが、今年はPM2.5が大騒ぎですね。対策がなかなかないようで厄介ですが、出来る限りマスクを厚めにしたり、花粉対策用のメガネを使用したりして変な病気が発生しないように気をつけていきましょう。

♪桜がまちどおしい今日この頃です。（三宅）



★医事より★

受付後に外出される方、キッズルームを利用される方は受付にお声かけ下さい。順番近くなったらお知らせいたします。

♪日生の牡蠣まつりに行きました。雪も降っていて寒かったのですが、牡蠣グラタンがとても美味しかったです。（安田）

☆培養士より☆

体外受精や融解胚移植を受けられた方は特定不妊治療助成金の対象となります。申請をご希望の方は受診証明書の記入が必要ですので、用紙をお早めに受付にお出し下さい。年度末が切になります。（所得などの条件もあるので各自ご確認下さい。）

♪こけまる飼いはじめました。毎日霧吹きをしています。（仲）

今月の相談コーナー



妊娠に気がつかずに胸部レントゲン検査（エックス線検査）を受けてしまいました。赤ちゃんに影響がありますか。

（30歳・主婦）

放射線被曝(ばく)の影響を考えると、正確な被曝時期(妊娠週数)と被曝線量の確認が必要です。受精後10日目までの被曝では、胎児形態異常は自然発生率(2~4%)より増加しません。ただし大量被曝の場合は流産の可能性があります。受精後11日目~妊娠10週まで(器官形成期)の被曝では、胎児形態異常を増加させる可能性があります。100mSv(ミリシーベルト)未満では影響しません。妊娠10~27週での被曝は、中枢神経障害を起こす可能性があります。100mSv未満では影響しません。

レントゲン検査で胎児が被曝する線量は、大きく見積もっても胸部単純撮影で0.01mSv以下とほぼ問題はなく、下部消化管造影(大腸エックス線造影検査)で24mSv以下、骨盤部CTで79mSv以下ですので、影響は無視できるレベルです。その他の被曝の影響として小児がんの発生増加がありますが、もともと低い発生率(0.2~0.3%)なので、わずかに上昇しても、それほど心配されるレベルではありません(10mSvの被曝で約1.4倍、100mSvで約3倍)。とはいえ余計な心配を避けるため、エックス線検査は排卵前(月経開始から10日以内が目安)に受けるように十分注意を払ってください。

(注) 1mSv=0.001シーベルト=1000マイクロシーベルト

